



新井先生のご講演では、「自立活動の基本的な理解」「自立活動の授業づくりのプロセス」「自立活動の授業の実際」「自立活動の多様なアプローチ」の5つの柱でお話がありました。その中で、特に重点的にお話されていた点を整理しました。

困難の背景 = 「障がい特性」をふまえる

コミュニケーション

●理解力は高いが、他者の意図を理解することが難しく、一方的に話し続けてしまい会話が成立しにくい。

●他者のペースに合わせて活動することは苦手で、自己流で物事を進めてしまうので、他者と協力できない。

心理的安定／健康の保持

●失敗経験が多く、不安になりやすい。新しいことには積極的に挑戦できない。

●自分の長所を客観的に認識することが難しく、他者との違いから自分を否定的に捉えることがある。

課題の優先順位を考える？ 課題を融合した活動？

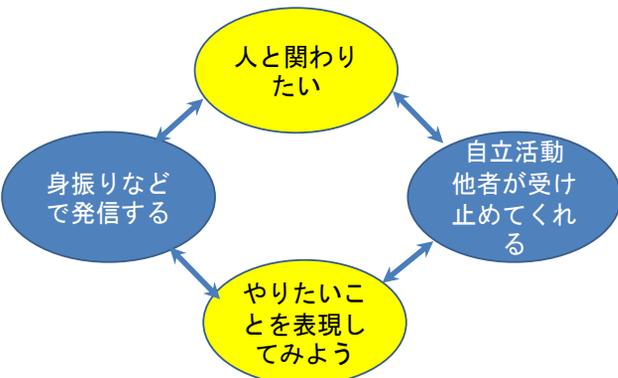
○コミュニケーション面で、他者の意図を理解することが難しく、一方的に話し会話が成立しないという課題があった場合。

なぜ？ → 人間関係の形成に困難さが…

背景にある困難さを探り、考えることで、**新たな課題が明確になってくる。**

根本にある課題をふまえて指導を展開する必要性！

好循環を生み出す自立活動を展開する



○自立活動の授業の中で、他者が受け止めてくれることを通して、人と関わりたいという思いをもち、身振りなどで発信するようになり、さらにやりたいことを表現してみようという思いをもつなど、好循環を生み出す指導を目指していく。



授業展開の際の留意点

自立に向けた課題をそのまま指導しない

自立を妨げている背景や要因を考え、それを改善することにより、自立（発達）が促進されていくように指導を展開することが自立活動である。

楽しい活動のなかで困難を改善する

苦手なことを指導課題にするのが自立活動であるが、子どもにとっては楽しい活動で課題に取り組むことが重要である。楽しく活動していたら、いつの間にか苦手なことが克服できていたというように指導を展開する。

○自立活動で、苦手な課題のみに焦点を当てて指導すると、課題が嫌になり自分から改善、克服しようという意欲がなくなってしまう。そのため、自立活動は、楽しい活動で課題に取り組んでいく必要がある。楽しい活動を通して、いつの間にか困難さを改善、克服しているように指導していくことを目指していく。

自立活動
(楽しい活動)

→ **困難さを改善・克服**